

店頭から
「こんにちは」

第54回

心配を抱え入院したものの： 原因は高血圧ではなく アレルギーだった？

還暦近くの女性が、近所で用事を済ませ、帰宅を。気になり、血圧を測ったところ、何と――。

目の充血も心配

顔見知りの女性が血圧を測ったといえます。すると、最高血圧が190くらい。しかも、両目の毛細血管が充血、真っ赤に。

身近な友人で、血圧が上がってはよく鼻血を出し、結局、くも膜下出血で亡くなった方がいたとか。その方のことが、脳裏をかすめたとも。

夜だったので、かかりつけの内科医師の携帯電話へ連絡、症状を説明すると、「様子を見ましょう」とのこと。

しかし、血圧は、さらに上がり、200を超えたといえます。心配になって広域病院の夜間診療に電話、事情説明を。すると、循環器内科の医師がいるので、「すぐに来な

さい」とのこと。

早速、救急処置室で問診、その間、血圧がまったく下がる様子はなく、「目の充血は血圧が上がったことが原因か、心配」と訴えたそうです。

しかし、「専門は、循環器内科だから、眼科へ」としかいわなかったとか。結果、何も処置しないで、肺のX線を撮り、採血だけして様子見に。

「このまま帰ってもいいし、入院してもいい。ただし、ベッドが空いていないので、廊下か個室になりますよ」といわれたそうです。

「えっ、廊下？」と聞き直したものの、冗談ではない心配。病室が空いてない場合は、緊急措置として廊下にベッドを置き、カーテンで仕切って、患者さんを受け入れますとの

ことのようにです。心を和らげる言葉は一切なく、とにかく個室に1泊入院することに。

「差額ベッド代が1万円かかる」といわれて了承したものの、「1時間少々で日付が変わるので、2万円かかる」との事態に。仕方なく、入院手続きを。

その後、「個室に案内します」というので、ついていくと、2人部屋が空いていたそうです。そこで、「2人部屋にしてください」と伝えると、「もう手続きしましたから、ダメです」との返答。

漢方薬で高ぶりを抑える

幸い、翌日には、血圧が150程度まで、下がったといえます。会計が済み、医師の説明を聞けば、午前中に退

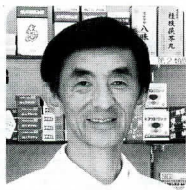


院となるとのこと。とはいえ、医師が現れたのは、午後1時半ごろだったそうです。

そうして、説明はといえば、「病名は高血圧、コレステロールがちよっと高いですね」と、それだけ。「指摘されなくたって、分かっている！もう、行かない」と心に誓ったといえます。

その帰路のこと、眼科に寄ると、「血圧が高くて充血することははない、これはアレルギー性のもですね」という診断。「この一言があれば、安心して、入院しなくて帰ってきたのに」と思ったとか。

その後、神経の高ぶりを抑える漢方薬を服用、気分は落ち着いているそうです。



宮川薬局 (宮城県仙台市) 代表
薬学博士・薬剤師
みやがわとしじ
宮川季士先生
プロフィール / 1976 (昭和51)年、東北薬科大学 (現・東北医科薬科大学) 卒業。'78 (同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87 (同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたオクスリ屋さんとして、多くのファンが。「嫌な長雨の時季、好きなことに打ち込んで？」